

地域を自分たちで守る

自主防災組織

自主防災組織とは

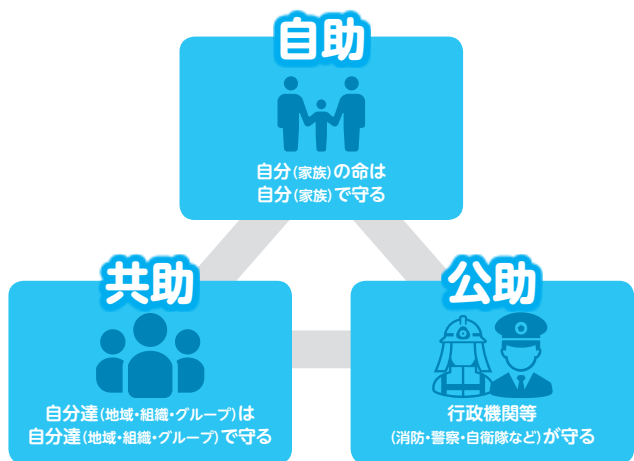
自主防災組織とは、地域の防災力を高め、起こりうる災害に対して自分たちの地域は自分たちで守るために、災害発生時はもちろん、日頃から地域の方々が一緒になって防災活動に取り組むための組織です。

大規模な災害が発生した時には、役場や消防、警察などの「公助」だけでは限界があり、被害が拡大する恐れがあります。このため、自分自身で自分や家族の命、財産を守る「自助」とともに、普段から顔を合わせる近所や地域の人々が、互いに協力し合いながら活動に取り組む「共助」が必要です。

防災の基本は「自助」「共助」「公助」であり、これらが上手く連携することによって防災対策は効果を発揮し、被害

の軽減を図ることができます。

自主防災組織は地域において「自助」と「共助」を推進する役割を担い、地域の防災力の中核となる大切な組織です。



有田川町では、102の自主防災組織が結成され活動しています。班・体制については、各地区の実情に合わせて構成されています。

近年は毎年20〜30組織が初期消火訓練や防災研修会などの活動に取り組んでいます。また、町の補助金を活用し、発電機や炊き出し機材などの資機材整備を実施し、日頃からもの時に備えた活動をしています。



役割

日頃から地域内の安全点検や防災知識の普及・啓発、防災訓練の実施、防災資機材の整備・管理など災害に対する備えを行います。

また、実際に災害が発生した時には、初期消火活動、被災者の救出・救助、情報の収集、避難誘導、避難所の運営などの活動を行うなど、非常に重要な役割を担っています。

誰しもが 自主防災組織の一員です